

- \*パウロがある時まで大切にしていた宝は、「人間的なもの」と表現されている。これは原語では「肉」という意味で「神の霊」に対するものとして用いられている。パウロにおける「肉」とは、八日目に割礼を受け、ベニヤミン族という部族の生粋のヘブル人であり、律法については何の非難されることもないパリサイ人であることに誇りを持って居たことである。しかし、その熱心さが教会を迫害することになった。（使徒 8：1~3 参照）プライドが高く、自分の主張が絶対正しいと信じている人は、他人にもそれを押し付けることが多々ある。それが高じると人を非難したり、陰口を言ったり、憤ったり、迫害にまで至る。自分の考えは神の目から見て本当に喜ばれることなのかをよく考えなければならない。
- \*キリスト者たちを迫害していたパウロはキリストに出会ってから人生の生き方が 180 度変わった。使徒の働き 9 章参照。彼はキリスト者を迫害するためにダマスコに行く途中復活された主イエスに出会い、目を見えなくされた。しかし、三日目にアナニヤというクリスチャンに会って手を置かれると目からうろこのようなものが落ちて見えるようになった。「肉」の人間から「霊」の人間に変えられたのである。この後、彼はバプテスマを受け、世界にキリストの福音を伝える大伝道者になる。
- \*パウロの心はどう変わったのか。「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくだと思っています。」（ピリピ 3：7~8）得であったものとは、現代風に言えば「立派な家柄」「最高の学問」「人々の賞賛」である。これらのものにこだわっているのは、逆に損であると思うようになった。それは「キリストを知っていることの素晴らしさ」を経験したからである。すなわち、イエスと出会い、イエスと日々交わり、イエスと共に歩むことの喜びに比べれば、地上のすべてのものが価値のないものに見えるのである。
- \*イエスはどのようにして喜びなのか。どのようにして最高の価値があるのか。それはこのイエスという方により、神からの義が与えられるからである。言い換えれば、律法や行いによるのではなく、イエス・キリストを信じる信仰によって罪が赦され、救いが得られるからである。私たちは地上でどんなに富を持って、名誉を得ても、それを天国へは持っていけない。それどころか、富や名誉に執着していると天国へ行けないと聖書は教えている。キリストに優る宝はない。キリストから目を離さないで、キリストに焦点を合わせて生きれば、自然と周りの物は見えなくなってくる。